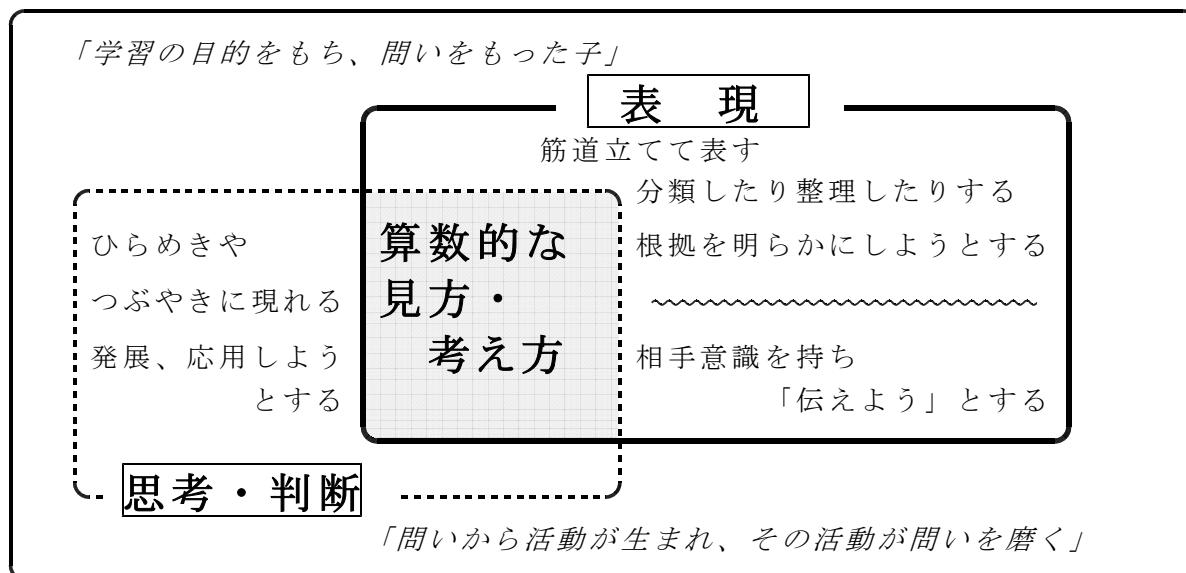


4. 「見方・考え方」が広がる思考力・判断力・表現力

算数的な見方・考え方が広がる問題解決学習



表現すること と 思考力 ・判断力

子供が自分の学習目的や、自分の（自分たちの）問いに沿って、活動に取り組んでいる時。単純に「表現する活動」や「考える活動」「判断が求められる場面」等に分けて理解することは適切ではありません。これまでの研究でも明らかになっている通り、考えることと表現することの相乗効果によって、子供の「筋道立てて考える力」がよりいっそう育まれるとおさえるからです。子供の姿として、考えることと表現することが、ほとんど一致している場面さえまれではありません。

子供が「表現する」場面をおおまかに①「問いを解決しようと表す」と②「相手意識を持って、伝えようと表す」の二つに場面分けをしておさえます。同様に「考える」場面を①「解決のために筋道立てて整理する」と②「ひらめいたり、つぶやいたり、直感したりする」の二つに場面分けをします。するとこの両方の“①”が、子供が「表現することで考えている」場面として浮かび上がってきます。

ここで「表現することで明らかになる自分や他者の考え」を、その学習で大切になってくる「算数的な見方・考え方」としておさえます。

獲得される 広がっていく 見方・考え方

直感やひらめきだけで終わるのではなく、自分の考え方として確かめたり、他者に聞いて欲しい・伝えたいと願ったりすることで「算数的な見方・考え方」を獲得できると考えます。

つまり「算数的な見方・考え方」とは、何かの問題に対しての答えというよりは、問題解決のための方向性をもてるものだったり、他の場面や他の問題に活用できるものだったり、それまでにも子供が身につけていたにもかかわらず、新たな問題場面で適用できることが、その時初めて見えてきたりするものなのです。

後述する「学年の発達段階」を通して明らかにすること。また算数の四領域にまたがるものとして明らかにすること。そして子供たちの「言語活動」という観点からも含め、多方面から考えていきます。